

ふじみなヒト×コト

お茶を一杯と、本をどうぞ
あなたのための小さな本屋「小鳥書房」

谷保・ダイヤ街に開いたシェアハウス「コトナハウス」に、今年小さな新刊書店が生まれました。「たったひとりのための本屋」がテーマの「小鳥書房」では、子どものための絵本や童話、料理本などのほか、本の取り寄せも行っています。「谷保には以前、本屋が何店もありました。一軒もなくなってしまう今、ご近所さんたちが本と出会える場所をつくりたいと思ったことがきっかけです」と代表の落合加依子さんは話します。



ダイヤ街商店街のコトナハウスにOPENした小鳥書房

「小鳥書房」は「本屋」と「出版社」という2つの顔を持っています。もともと大手出版社の編集者でもあった落合さんは、「ベストセラーではない、「たったひとりのための本」をつくりたい」という思いで独立し、著者と二人三脚で本の企画・編集から出版までを手がけるように。「本づくりは大きな出版社や有名な著者だけのものではなく、もっと身近なもの。心を動かされる本を、まちの人たちと一緒につくりたい」と、読み手の感性や想いに寄り添う本を世に送り出しています。

7月には広島で若者を支援する女性に密着した新刊を出版予定。乞うご期待！

昨年12月出版「もっと自分を好きになる 育自のための小さな魔法ノート」



小鳥書房

場所：コトナハウス（国立市富士見台1-8-42）
OPEN：13:00～18:00 / 月曜日+週1～2日開店
※OPEN予定日はFacebookからご確認下さい。
[Facebook] 小鳥書房

富士見台 まちかど
ごぜん塾 10:00～12:00
場所：プラムジャム
申込み受付中!

「ごぜん塾」春講座、開催中!

火 初めてのスペイン語 NEW

体験講座：10:00～12:00
4/10 月曜 500円
連続講座：10:00～12:00
4/17～ 毎週月曜 月6,000円 *4回分
講師：村内カリン(スペイン語会)

火 ソロバン脳トレ 基礎編

4/11・25(火) 1,000円(初心者体験500円)
講師：緒方恵子(ソロバン教室講師)

水 PC、スマホ、タブレットお困りごと相談

毎月第2・4水曜 *無料
講師：隈井裕之(国立せいさく所)

木 ハンドエステ体験

毎月第1・4木曜 10:20～12:00
15分/500円、特別エステ1,000円
講師：藤井麻由美
(ママエステアシスト協会)

金 クリスのPractical English

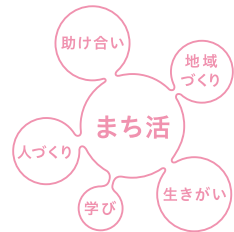
初級クラス 9:30～10:30
毎週金曜 月4,800円 *4回分
中級以上クラス 10:30～12:00
毎週金曜 月6,000円 *4回分
講師：クリスティーナ・ロビン
(カナダ人英会話講師)

土 キホンのデッサン 新シーズンスタート

4/15、5/6・20、6/3 土曜 全4回
4回分4,000円 体験要相談
講師：山内唯志(まちかどデッサン会)

*上記日程は変更になる場合があります。事前にお問い合わせください。

あなたの「まち活」
応援します!



くにたち プラムジャム通信

Kunitachi
PLUM JAM - NEWS

- ▶ P1-2 Cover story NPO 法人くにたち農園の会
- ▶ P2 くにたち地域コラボ学習支援事業
- ▶ P3 くにたち地域コラボ2016年度研修事業

- ▶ P4 ふじみなヒト×コト 小鳥書房
- ▶ P4 ごぜん塾 ごぜん塾 春講座、開催中です

発行 ▶ くにたち地域コラボ

2017
vol.12

Cover story

NPO法人くにたち農園の会
多様な人たちとの関わりや本物の体験を通して
たくましく生きる力や優しさを育む



左から：「NPO法人くにたち農園の会」理事長の小野淳さん、理事佐藤有里さん、つちのこ食堂のママ小湊玉正さん、理事小林未央さん

畑へ続く路地裏に猫が佇む、どこか懐かしい風景。国立市谷保のシェアスペース「やぼるじ」の母屋で、田畑とつながる子育て古民家「つちのこや」がこの春始まった。

運営する「NPO法人くにたち農園の会」は、2013年から同じ谷保地区で「農が身近にある暮らし」を守り、子どもたちの世代に残すため、新しい都市農業や子育て活動を実現してきた。

その拠点、畑とたんぼの農園「はたけんぼ」周辺には用水や緑豊かな里山の自然が残る。羊やポニーと触れ合い農体験ができる場、野外で子育てを楽しむ「森のようちえん 谷保のそらっこ」、畑を居場所にあそびや学びをつくる「放課後クラブニコニコ」等様々な活動を続けてきた。「イタイ、アツイ思いをしてあそぶって大事な

んですよ」と明るく話すのはつちのこや運営メンバー、すがいまゆみさん。自然の中であそび、働く(農作業や動物の世話)。蛙やザリガニに触って観察したり、工作に集中したり、五感で感じ工夫やチャレンジの体験を通して考えることで、リアルな感覚が蓄えられる。それが自ら疑問を意識し、考え行動する力につながるという。

昨年末、やぼるじ内にあったカフェが閉じたため、急遽2ヶ月程の準備で新しい子育て支援の場を開いた。その和室で週二日開く「つちのこ食堂」では、玉ちゃんこと小湊玉正さんがすぐ側の畑で育てた新鮮野菜を使い、優しい味の韓国料理を作ってくれる。また、わらべうたや絵本の読み聞かせの日は、会の終わりに「はたけんぼ」までお散歩することも。

WEBサイトで情報発信中!

会員からのお知らせも随時更新できます。ぜひ、アクセスしてください。

<https://www.kunitachicollab.com/>

活動メンバー募集中!

地域を拠点にあなたのやりたいこと、できることって?居場所づくりから、さまざまな市民活動のご紹介などご相談、お問い合わせをお待ちしています。

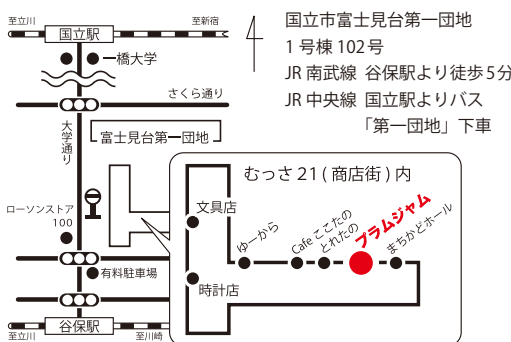
2016年度の新規会員
(2016年7月～2017年3月入会)
年会費：正会員2,500円 利用会員500円

利用会員

- ・NPO法人パティチーム
- ・小鳥書房
- ・アンの物語
- ・バク・ヘジョン韓国語教室
- ・スペイン語会



プラムジャムは、国立市の中間支援組織「くにたち地域コラボ」が運営および拠点とするコミュニティスペースです。会員登録すれば、打ち合せや会議、教室、仕事場としての利用が可能です。どうぞお気軽にお越しください。





池のある庭で遊んだり、広い和室でゴロンや日向ぼっこをしたりして過ごせる。曜日ごとに違う活動があり、「おやこびより」の日は、絵本とわらべうたの時間がある。

その他、一般開放の「だれでも茶の間」では、「縁側にちょっとばあばが来てるよ」という感じで、保育園に長年勤めた方がぐずっている子を隣であやす様なあたたかい時間もある。子連れの方やそうでない方、散歩途中の方も、様々な方がふらりと立ち寄り、自然に協力し合う“地

域に開かれた茶の間”の様になりつつある。運営メンバーの佐藤有里さんは「子どもが多様な人たちと触れると、たくさんの価値観に出会い、心の幅や視野が広がると思うんです」と優しく話す。また「最近世の中の流れが加速し、親子さんの暮らしも、合わせる子どものペースも速くなっている。せめてここにいる時だけでも、地域の人たちが見守る中、心を緩めてもらいたい。そして、子どもが思い切り楽しんで没頭する時間に、大人がもうちょっとだけ寄り添える場になればいい」。このような場所で子どもたちが過ごした時間は、将来社会の中で自分とは違う存在を認め、強くしなやかに生きていく力を育むことだろう。

Cover story



NPO法人くにたち農園の会
TEL : 090-6187-7994 (農園の会 すぎい)
URL : <http://hatakenbo.org/kunitachinouen>
つちのこや (やぼろじ内)
つちのこ食堂 (月火) おやこびより (水)
だれでも茶の間 (木金)
11:00~14:00 (水曜のみ 11:00~16:00)

くにたち地域コラボ学習支援事業

学科の勉強だけでなく、子どもたちの創造性を伸ばす支援もしています。

くにたち市報3月5日号にも紹介されたように、プラムジャムでは毎週月曜夕方、22名の小中学生が「わからないところ」を大学生と一緒に勉強中です。さらに「できるをふやす」創造プログラムでは、谷保にある「畑の家」で月2回のピアノレッスンを支援。また土曜日午後の「駄菓子やくにちゃん」との連携では「ニキーチンブロック」編がスタート(写真)。7つのピースを使って、遊びながら空間認識力を磨くのですが、子どもたちは夢中になって取り組んでいます。3月には東京大学の学生サークルCASTによる「科学の不思議実験教室」も開催。子どもたちが地域でさまざまな学べる機会に出会えるように、サポートが続きます。



子どもは挑戦が大好き!最初はわからなくても先生のアドバイスで先へ先へと進みます。(ニキーチンブロック)

「子供の未来応援基金」未来応援ネットワーク採択事業
<https://www.kodomohinkon.go.jp/>



くにたち地域コラボ2016年度研修事業

このまちだから、応援したくなるクラウドファンディング講座第2弾

事後レポート

参加者数 38人

盛況のうち終了しました!



鎌倉市に限定したクラウドファンディングサイト「iikuni(いいくに)」から見えてきた、まちを楽しみ、盛り上げるパワーを持続させる仕組み。

2月5日、KFまちかどホールで国上市役所とくにたち地域コラボ共催の講演会・ワークショップが開催されました。

第一部では“鎌倉をよくするプロジェクト”に限定して支援を行うクラウドファンディング*サイト「iikuni」成り立ちにまつわる講演を、第二部では「iikuni」の母体となっているチーム「カ

※クラウドファンディング……主にインターネットを活用した寄付を行う方法。

第1部 iikuni事務局リーダーの松本裕さんによる講演

「カマコン」メンバーの1人でもある松本さんは、「『iikuni』に掲載するだけでは、そのプロジェクトは決して成功しません」と話します。「カマコン」が大切にしているのは、プロジェクトを実現させたいという強い思いに共感し、応援してくれるファンを増やすこと。その思いを共有するために開催しているのが「カマコン定例会」だといいます。



松本裕さんによる「カマコン」活動紹介

第2部 国立で立ち上がる新しいプロジェクトを“ジブンゴト”として捉える、共感ワークショップ

はじめにプロジェクト発案者がプレゼンテーションを行い、その実現に向けて参加者全員でアイデアを出し合う「カマコン」形式の定例会を体験しました。この



マコン」の定例会を模した参加型ワークショップを行いました。

月に一度開催される「カマコン」定例会には市内外から参加者が訪れ、さまざまなプロジェクトが発表され、その多くが実現しています。まちに関心を持つ人が増え、盛り上がりを持続する、その仕組みを参加者で体験しました。

日は、国立で活動する2人の発表者が「国立に米屋をつくりたい」「駄菓子や『くにちゃん』に来ているアイロンビーズ細工名人の特別な才能をぜひ他の人へも伝えたい」といった議題を持ち寄り、それぞれ5分間のプレゼンを行いました。プレゼンを聞いた参加者は興味をひかれたプロジェクトのグループに分かれ、15分間自由にアイデアを出し合い、最後に発表。全員参加型の楽しい雰囲気の中で、1グループあたり30~50(!)ものアイデアが生まれました。



「カマコン定例会」形式の共感ワークショップを体験

共感を生むプロジェクトが、まちを元気にする

イベント後の懇親会には多くの方に参加していただき、短い時間では話し足りなかったアイデアを共有するなど盛況でした。

同じ目標を共有することで、プロジェクトが“ジブンゴト”になっていく。「楽しかった」「自分でも発表してみたい」という参加者の声も上がり、「国立のまちをよくするプロジェクト」のさらなる広がりを予感させる講座になりました。

ファンを増やすこと!

ジブンゴトにしてもらう!